

Global Writing 2014

イントロダクション:

「カナダ」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？バンクーバー五輪やナイアガラの滝、オーロラを思い浮かべた人もいるでしょう。では「カナダの文化」と聞いたとき何を思い浮かべるのでしょうか？あまりピンと来ない方が多いのではないのでしょうか。私たちは、なじみ深い国だと感じているが、実は知らないところだらけなのです。この謎に満ちたカナダの謎を少しでも知ろうとして始まったのが「グローバルライティング」というプロジェクトです。今回私たちはフェイスブックにカナダのトロント大学の学生とお互いの国の文化について英語と日本語で書き、意見交換を行いました。このホームページではプロジェクトの内容と結果について報告します。

GLOBAL WRITINGってなに？

県大の学生はカナダに関する興味のあるトピックを6つ挙げ、トロント大学の学生に英語で質問します。トロント大学の学生はそれに対して知っていることや体験談を日本語で書き、送ります。同様にトロント大学の学生は日本に関する興味のあるトピックを6つ挙げ、県大の学生に日本語で質問します。県大の学生は英語でコメントをします。このやり取りをFacebook上で3回行いました。

私たちの学び、発見:

Masataka



カナダは多民族国家であり、その中でカナダ人のアイデンティティの形成においてどのような実態があるか調べました。トロント大学の学生とのやり取りを通じて、いくつか興味深い成果が得られました。カナダでは国に基づいて二つの市民権を持つことができます。個人によってそれぞれの市民権の依存度は異なりますが、二つの市民権を大切にしています。様々な国の国家性が重なってカナダ人としてのアイデンティティが形成されています。

Nanami



日本の上下関係の厳しさ、労働時間の長さは世界的にも有名であり、これらのことは過労死を初めとした社会問題にもつながっています。カナダにおいても上下関係や残業といったものが少なからず存在しますが、これらのことが社会問題に発展するほど深刻なものではないようです。全体的にカナダの会社の方が労働者にとって働きやすい環境であるという印象を受けました。上司と部下の関係やワークライフバランスなど日本の会社が見習うべき点多々あり、興味深かったです。

Chie



日本では同性婚が認められていないし、欧米よりも比較的身近でない問題なので、同性愛というテーマについて考えることはやりがいのあるものでした。同性婚を合法化していて柔軟な考えを持っていると思っていたカナダでも、同性愛者に対する差別が残っていて、差別を除くために同性愛運動をしていることがわかりました。しかしカナダが同性愛に対して昔よりいい方向に変わってきたように日本も少しずつ寛容になっていけたらいいなと思いました。

Shiho



私は、今回のWriting projectにおいて、途上国の人々の生活を体験できるプログラムがカナダにあることを知りました。私は、アメリカで多くの生徒がたくさん食べ物を残しているのを目にしたので多くの人は食糧問題についてあまり考えていないのではないかと考えていました。しかし、このWriting Projectを通じて彼らはただどうすればよいのか分からないだけなのだと気づきました。また、食べ物が無い状況に置かれなければ、食べ物の価値を理解するのは難しいという意見に納得しました。それゆえ、最も大切なことは途上国の人々の現状を知り、自分たちに何ができるかを考えることではないかと考えるようになりました。

Takuto



カナダの学生たちと貴重な経験ができたと思います。僕たちは就職活動について話しました。日本の就職活動はその厳しさで世界的にも知られているようでした。彼らはこの状況が、日本人の仕事に対する考え方によって引き起こされているのではないかと考えていました。カナダのシステムの説明も受け、日本のものとは大きく異なることがわかりました。若い頃から熱心に働くことは良いことだと思いますが、カナダのように色々な経験をして、自分のやりたいことが明確になってから就職をするという考えも悪くないのではと感じました。

Facebookのページ



Takuma



今回のプロジェクトでは、カナダにおける移民教育、特にESLという非英語話者に向けた語学の授業について学びました。トロント大学の学生とのやり取りを通して、移民の方々が必要な環境や文化にいち早く順応できるよう、カナダ政府が移民教育を積極的にサポートしていることを知りました。こういった制度はまだ日本では確立していないため、カナダの教育制度は驚きであり、新鮮に感じました。

Haruhu



私は、同性愛についてトロント大学の学生の皆さんと議論しました。カナダでは同性婚が認められており、日本では認められていないので、その違いを理解するためお互いの意見を交換しました。結果として、思った以上に両国とも同性愛に対する考え方は変わらないということに気づきました。カナダの人でも日本人のように、同性愛者を受け入れることは決して簡単ではない、ということにとても驚きました。また、カナダの人でも日本人も、同じように同性愛者との共存を望んでいることを知れてとても嬉しかったです。

Nami



まさか日本のヲタク文化について聞かれると思っていなかったのですがびっくりしました。ヲタクとは何なのか定義を考える機会になりましたし、これを通じてカナダの人がヲタクという概念に対してどのようなイメージを持っているか明らかになりました。ヲタクの人たちは日本の経済に貢献しているのになぜ軽蔑されているのかという質問には考えさせられましたし、日本人の私にはない視点を持っていました。このプロジェクトを通じて発見したことは、日本におけるヲタクと海外におけるヲタクは少し概念が異なっており、ただ単にファンである意味合いが海外では強いという事です。

大変だったこと、感想:

お互い自分の母語と外国語で意見の交換をするのはとても難しかったです。やはりトロントの大学生の方も日本語が完璧なわけではないですし、もちろん私たちが英語がつかない部分があったと思います。でもなんとか自分の言いたいことを相手に伝えるいい機会になりましたし、世間話とは違う、少し深い部分での交流ができたと思います。お互いよくやったと思います。(Nami)

私自身、日本について知らないことが多く、質問されてもわからないことがたくさんあり情けないと思う場面もありました。もっと日本について学び、外国人に日本について自信を持って説明できるようになりたいです。また、近い将来直面するであろう日本の労働システムについて改めて考えてみる良い機会になりました。(Nanami)



トロント大学の学生がテレビに出ているオネエタレントは同性愛に対する考え方に影響を及ぼすか、という質問をしきりにしていたが、私は同性愛者とオネエは全く別のもと考えていたので、回答に困りました。しかし、同性愛者でもオネエでも、自己とは異なる嗜好だからといってその人たちを差別したり批判したりするのは間違ったことだと考え直す機会になりました。(Chie)

トロント大学とのやり取りは非常に意義のあるものでした。カナダの現地生の声を得ることができて、普段なかなか学び取れなかったものを学べました。また、ほかのトピックも興味深いもので、考えさせられることが多かったです。(Masataka)

とてもよい経験でしたが、お互いの顔を見ることなく、異なる考えや見方をする海外の方々とはさまざまな問題について話すことは難しいと感じました。アメリカに留学していた時は友人とさまざまな議論をしましたが、その時は私が言ったことにどう反応するかを見ながら話すことができました。一方で今回は返事が来るまでその反応がわかりません。なので、お互いの顔を見て話す時よりも少し穏やかに議論ができるよう、心がけるようにしました。このプロジェクトに参加したことで、いろいろな問題について考え、また外国の生徒がその問題についてどう考えているのかを知る良い機会となりました。(Shiho)

このプログラム中に問題になったのは主に、自分の意見の英訳と、まだ経験したことのない就職活動について話し合うことでした。日本語で考えるのすら難しい部分もあり、より難しく感じられました。また、限られた情報をもとに意見を組み立てるのも苦労しました。しかし、就職活動について考えるよい機会になったと思います。このような難しいトピックに取り組むのは自分にとって挑戦でしたが、このプログラムに参加してよかったと思います。(Takuto)

今回のプログラムを通して痛感したことは、社会問題や文化など、私が持っている日本についての知識が少ないということです。トロント大学の学生からの質問に回答する際、リサーチなくしては具体的な回答を書くことが出来なかったことがよくありました。これは本当にショックで、情けなさを感じました。日ごろから新聞やニュースなどで、社会問題や文化についての情報に触れるようにすることが大切なのだ、改めて感じました。(Takuma)

私は、海外の大学生とコミュニケーションをとるようなことは今までになかったので、すごく面白かったです。難しいテーマが多かったのですが、このプロジェクトでは、自分の生の声を書くことが大切にされていたので意見を書くのはそれほど難しくはありませんでした。英語と日本語をお互いが駆使すれば、問題なくコミュニケーションをとることができる、ということに感動しました。また、カナダの人の生の声が聞けて、とても興味深かったです。この経験を活かし、これからも世界中の多くの人とコミュニケーションをとってまいります。(Haruho)



まとめ:

今回のプロジェクトを通じて、様々な問題に関してトロント大学の学生と意見の交換を交わすことができました。日本人にもあてはまる意見もあれば、そうではない意見も得ることができました。このプロジェクトで私たちの身近なところで発生している問題を考える習慣を身につけたり、さらに磨きをかけたりすることができました。多くの意見交換で私たちの物事の考え方に刺激を与えることにつながりました。トロント大学の学生の方々、国際関係学科の宮谷先生、iCoToBaの岡崎さんをはじめ、今回のプロジェクトに携わってくださったすべての皆さんに感謝します。ありがとうございました。